

校務改善NEWS - 第27号 -

発行日 平成31年3月28日

事務局 東京都教育庁人事部職員課

発行 校務改善推進会議

新宿区西新宿2-8-1 都庁第一庁舎北側36階

平成30年度 校務改善表彰状授与式

平成31年2月18日、都庁第一本庁舎5階レセプションホールにて「平成30年度校務改善表彰状授与式」が行われ、学校・団体表彰4校、個人表彰6名の方が受賞されました。

式の中では、世田谷区立船橋小学校の榊原麻紀主幹教諭、昭島市立清泉中学校の松岡菜穂子主任に取組内容を報告していただき、稲城市立稲城第七小学校の緒方康裕副校長先生に事例発表をしていただきました。

受賞された学校と個人、主な取組内容は下記のとおりです。



式の様子

学校・団体表彰	品川区立第三日野小学校 藤森 克彦 校長	分掌内に主任ラインを設置し主任教諭の責任感と意識向上を促進。スクール・サポート・スタッフを活用し積極的な校務改善を実施
	板橋区立中台中学校 宮澤 一則 校長	独自の教育課題の解決に経営支援部を活用し、副校長に集中していた外部対応を改善。来校者情報を共有し円滑な学校運営を推進
	青梅市立藤橋小学校 中野 和人 校長	校内組織のスリム化と分掌内の役割の明確化を推進。職員会議の回数を半減、部会や委員会の数も見直し、分掌業務に要する時間を縮減
	西東京市立けやき小学校 高橋 亨 校長	経営支援部で定期的な会議を行い、その取組の一環として事務職員による文書管理や会計処理等のOJTを実施。教員業務の適切な進行管理を推進
個人表彰	世田谷区立船橋小学校 榊原 麻紀 主幹教諭	特別支援教室の会議を半減。副校長不在時にはHP管理等を行った。業務の効率化と副校長補佐に取り組み、副校長が人材育成に費やす時間を確保
	世田谷区立桜小学校 辻 紀子 主幹教諭	校務システムを活用し職員会議を月1回から学期1回に大幅に縮減。会議に向けた打合せ時間も減らし、主任教諭を中心としたOJTの充実に貢献
	杉並区立杉並第四小学校 近藤 誠揮 主任	統合新校に向けた調査において教職員が進めやすいようにマニュアルを作成。共有フォルダを作り進行状況を把握し、円滑な作業の運営に貢献
	昭島市立清泉中学校 松岡 菜穂子 主任	予算編成の進め方を見直し改善を推進。校長とヒアリングを行い予算を決定。教職員の要望を反映させた執行状況が分かりやすいシステムを構築
	稲城市立稲城第七小学校 緒方 康裕 副校長	各分掌ごとの年間の取組を一覧にした「分掌暦」を作成。削減、整理、統合できる業務内容を洗い出し、見直しをもった計画的な業務を促進
	西東京市立保谷小学校 高野 富 校長	集金を振込方式に移行。現金紛失のリスクがなくなるとともに、集金に掛かる時間の削減で教材研究の時間を確保するなど、業務の効率化を推進

事例発表校 稲城市立稲城第七小学校



校務改善への取組事例

稲城市立稲城第七小学校 副校長 緒方康裕



<改善への意識啓発>

職員会議や職員夕会などで「何のための校務改善なのか」を繰り返し啓発。日常困っていること、こうなると便利である、時短につながるなどの意見を聞く機会を設定。やめることや変えることを恐れず、視野の広い改革を目指す。

<校内メールの活用>

水曜にあった職員夕会をやめ校内メールを活用し不要な打合せや印刷物を削減。メールに頼り切りにならないよう、主幹教諭が進捗状況や進行管理を確認

<分掌暦の作成>

組織内の進行をスムーズにするためのシステム化やマニュアル化を推進。各分掌で抜けや落ちのない進行管理ができるよう、毎月の会議、毎回のルーティン活動、確認事項も記載されている「分掌暦」を作成

働き方改革 = 意識改革
校務改善 = 意識改革

明日からでもできること
やれることから取り組む。



東京都 校務改善 で検索

←左のQRコードからも入れます。

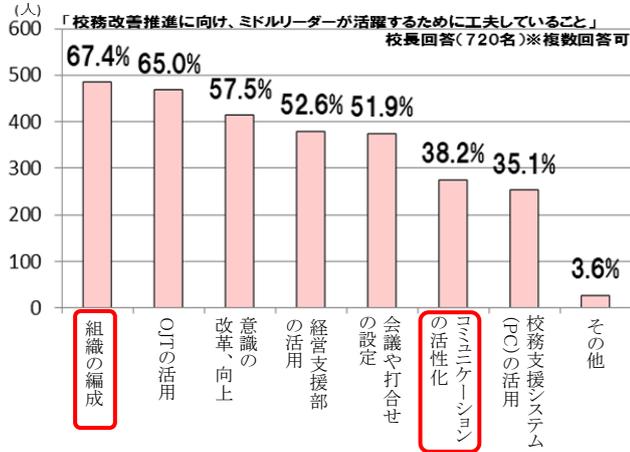
表彰状授与式で事例発表をしてくださった稲城市立稲城第七小学校の全スライドが掲載されています！！

今年度のまとめ「ボトムアップで創る校務改善」〔概要〕

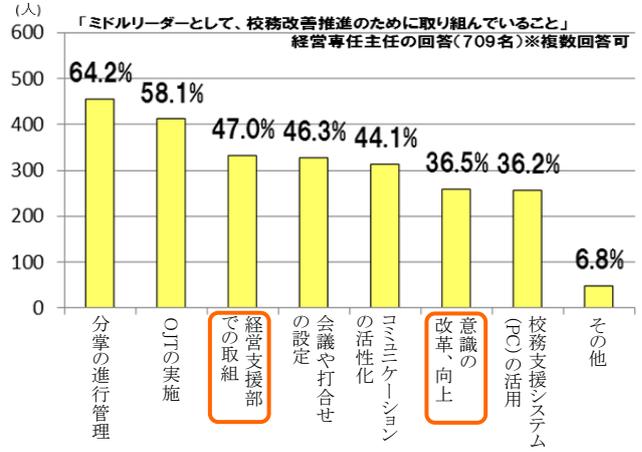
今年度は、「ボトムアップで創る校務改善」を推進テーマに設定しました。経営支援部設置校の校長とミドルリーダーである学校経営専任主任にアンケートに御協力いただき、取組状況や事例を調査しまとめました。

(1) 校務改善推進のための校長やミドルリーダーの取組状況

<校長> ミドルリーダー活躍のための工夫



<経営専任主任> 校務改善推進の取組



組織の編成

☆連絡・調整や指導・助言の機会を意図的に設定することで、経営参画意識と責任感を育成

コミュニケーションの活性化

☆ミドルリーダーが積極的に話ができる環境づくりを促進。建設的な意見が活発に出るとともに、提案力が向上

経営支援部での取組

☆業務の分担等、効率化に向けた提案・改善を行うとともに、外部とのパイプ役を担い円滑な学校運営に貢献

意識の改革、向上

☆ミドルリーダーとして自己研鑽を深め校内に発信。様々な工夫で意識を共有し、校務改善の気運を醸成

(2) 他の教職員への働き掛け

「他の教職員へ働き掛けの有無」を聞いたところ「ある」との回答が87%でした。取組における自由意見を集計すると「タイムマネジメントの工夫」が最も多く、様々な工夫や取り組みやすい内容が多く見られたのでその効果をまとめました。

<校長> ☆勤務時間を分析してその傾向を把握。自己申告などを活用して指導・助言をするなど、個に応じた適切な支援を実施し、業務の進め方を改善

<経営専任主任> ☆若手教員などに比較的近い存在であるミドルリーダーが、時間管理に対する率先垂範の姿勢を見せることで、業務への取組方の意識が向上

「タイムマネジメントの工夫」だけでなく、管理職やミドルリーダーが他の教職員に業務の効率化などを働き掛け工夫することで改善への意識が高まり、教職員発による様々なアイデアが出される傾向が見られました。

(3) まとめ

「ミドルリーダーを中心とした教職員発の校務改善」を進めるためには、「ミドルリーダーからの提案の活発化」「改善の取組の意欲的な発信」「教職員発による改善サイクルの促進」の三つのポイントが挙げられ、これらを推進するための取組が求められていると考えます。

<校長>

ミドルリーダーが更に活躍できるように
○学校運営に積極的に関わらせる組織の編成
○ミドルリーダーが主体となる話し合いの場の設定 等の工夫

<経営専任主任>

校務改善の中心的役割を担い、改善を更に拡大するために
○学校運営の柱として、改善に向けた内外の調整を推進
○自己研鑽(さん)を深め、周囲に情報を共有 等の取組

<全教職員>

他の教職員を巻き込んだ改善の推進のために
○個に応じた日常的な指導・助言
○効率的に業務を進めようとする意識付け 等の働き掛け

ミドルリーダーからの提案の活発化

改善の取組の意欲的な発信

教職員発による改善サイクル促進

ミドルリーダーを中心とした教職員発の校務改善へ



「ボトムアップで創る校務改善」全体版には、取組内容例も掲載されています。校務改善HPの「校務改善推進会議(過去の会議資料)」平成30年度第2回の会議を是非御覧ください。